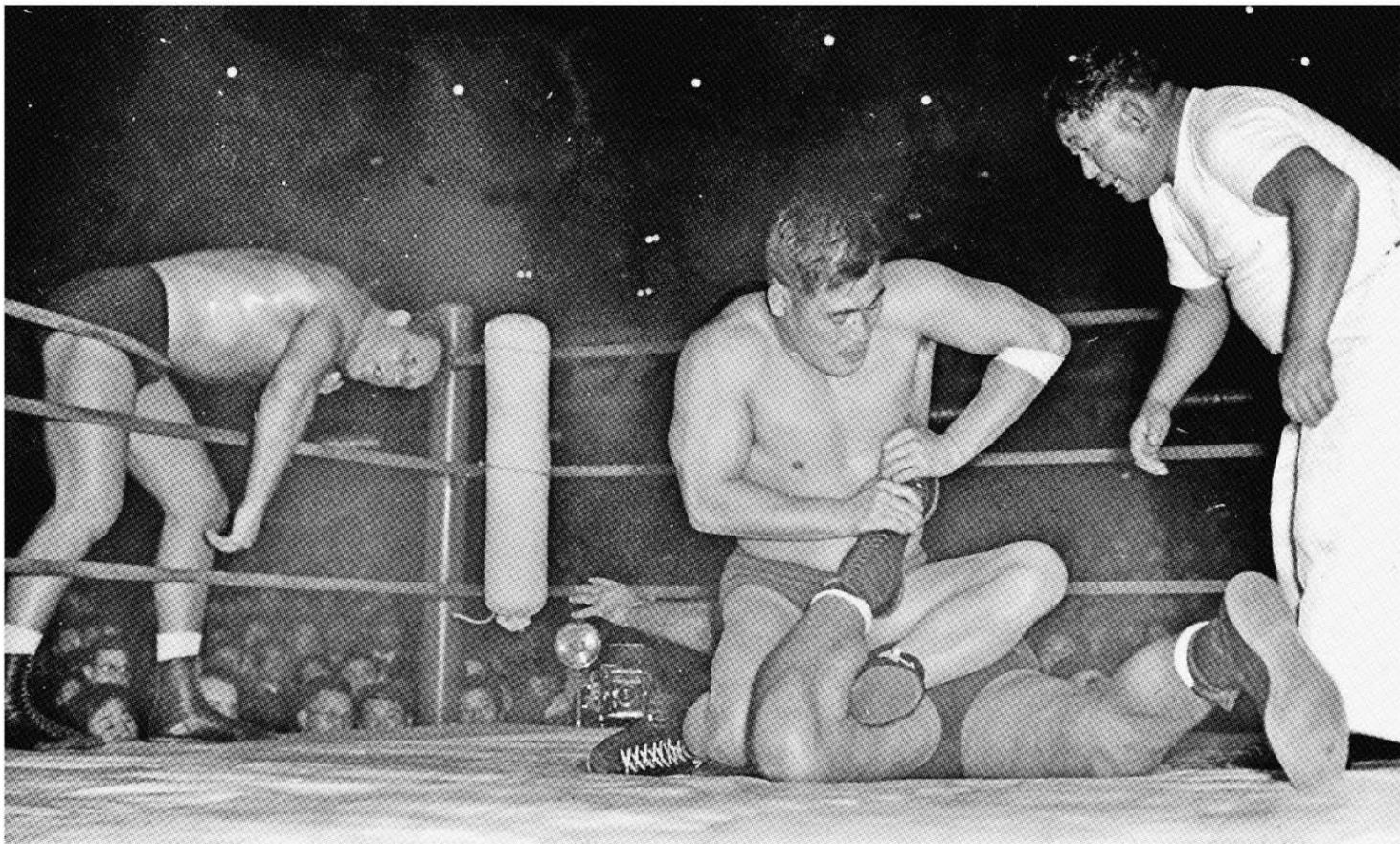


文・皿木喜久

題字・藤渡辰信

# 紅陵に命燃ゆ

プロレスに転向し、シャープ兄弟と戦う木村政彦(中央)。力道山とともにプロレス人気を盛り上げた—昭和29年2月



## 戦後の武道

海外雄飛を奨励する拓殖大学では、異なった風土に耐える壮健な体を作るため、柔道だけでなく相撲、剣道、空手などの武道が盛んで、いずれも高い水準にあった。戦後はGHQ(連合国軍総司令部)により禁止されたが、徐々に復活する。

柔道部は木村政彦が師範として復帰した後の昭和40年には全日本学生優勝大会で優勝している。また空手は、日本空手協会の設立に参加した後、米国でアマチュア空手連盟を設立し会長になった西山英峻をはじめ欧米、南米、東南アジアなど世界各地に空手の普及に当たった者が多い。

相撲部は何度も全国制覇をなした。元関脇、舛田山(舛田茂)、元関脇、柄乃洋(後藤泰一)ら大相撲の関取を生んでいる。最近ではボクシングのWBA世界スーパーフェザー級チャンピオン、内山高志が拓大出身である。



木村を破り、プロレスの superstar になった力道山—昭和37年ころ

木村は、得意の「空手チョップ」で人気を急上昇、10カ月前には日本プロレス興業を旗揚げしたばかりだった。一方の木村も柔道界出身のプロレスラーの代表として国際プロレス団を率いている。「柔道と相撲とどちらが強いのか」という関心もあり、日本中に2人の対決を待ち望む声が強まった。まさに国民的関心事となっていたのである。

しかしプロ柔道はシヨリの要素が少なかったため、すぐに行き詰まり、翌年にはプロレスに入る。大相撲から遅れて転じた力道山とタッグを組み、来日した米国のシャープ兄弟を破り、プロレス人気を盛り上げた。その木村と力道山が29年12月22日、日本選手権として雌雄を決することになる。

力道山は、得意の「空手チョップ」で人気を急上昇、10カ月前には日本プロレス興業を旗揚げしたばかりだった。一方の木村も柔道界出身のプロレスラーの代表として国際プロレス団を率いている。「柔道と相撲とどちらが強いのか」という関心もあり、日本中に2人の対決を待ち望む声が強まった。まさに国民的関心事となっていたのである。

だが、戦争は木村の人生を大きく変える。卒業後は兵役に行ったり、「ヤミ屋」のような仕事をしたりしていたが、昭和25年、牛島に誘われてプロ柔道界に入る。結核にかかった妻に薬を買ってやるためだったと言われる。

昭和38年に暴力団員に刺されて亡くなった力道山は何も語らなかつた。途中から「本気」を出したことに、木村の足が力道山の股間を蹴ったため頭に来たとの説もある。だがこれも当たったかどうか、はっきりしていない。むしろ、プロレス界の盟主争いで決着をつけるため、力道山が途中で約束を破る気になったという見方の方が説得力がある。

午後9時過ぎからの試合は放送が始まって間もないテレビでも中継された。だが勝負はあつてなかつた。最初の13分ほどは互いに技を繰り出すクリーンファイトだったが、力道山が突然、人が変わったように攻勢に転じる。空手チョップを急所の頸動脈に乱打する。たまたまマットに沈んだ木村に「蹴り」を入れる。レフェリーは力道山のKO勝ちを宣した。

## 力道山とプロレス対決

木村政彦(きむら・まさひこ) 大正6(1917)年、現在の熊本市生まれ。鎮西中から拓殖大学卒業。戦前から戦後にかけ日本一になること5回。「戦争がなければ、20連覇も夢でなかつた」とまで言われた。昭和25年、プロ柔道結成に参加、26年から35年までプロレス界に。36年拓殖大学柔道部師範、同大学教授。平成5(1993)年4月死去。享年75。

# 無敵「木村の後に木村なし」

14年間も負け知らず

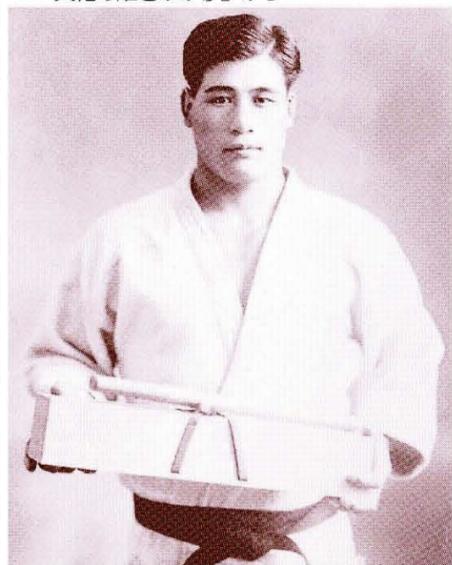
「木村の前に木村なく、木村の後に木村なし」柔道家、木村政彦の「無敵」ぶりをたたえたこの言葉は、小説『姿三四郎』などで知られる直木賞作家、富田常雄のものだという。富田の父は講道館柔道の生みの親、嘉納治五郎の弟子で四天王と言われた富田常次郎である。三好徹氏の『戦う男たち』によれば昭和15年6月、全日本選手権に代わって行われた天覧試合で、木村が5人を破って優勝したときに口を出したのだそうだ。

それ聞かない。それもそのはずだ。木村は18歳で拓殖大学に入学した昭和10年こそ5回の敗戦を味わった。しかし同年秋の明治神宮大会大学高専の部で優勝して以来、現役を退く24年の全日本選手権まで一度も負けなかつた。つまり約14年間にわたって「無敵」(街道を歩き続けたのである。相撲の双葉山の69連勝とどちらがすごいのか、判定が難しいといえるような強さだった。学生時代には、身長170cm、体重85kgほどで、当時としても平均よりやや小さいぐらいのサイズだった。それでいて大の男を大外刈り、大内刈り、背負い投げなどの得意技で投げ飛ばした。東京五輪の無差別級で優勝した

## その12 柔道の鬼

オランダの巨漢、アントン・ヘーシンクについても生前、「現役同士でやったら絶対に勝てた」と言っただけならなかつた。この実績と強烈な自信の背景にあるのは、拓大時代の想像を絶する敵しい稽古だった。熊本の鎮西中学時代、先輩で拓殖大学の柔道師範だった牛島辰熊にスカウトされ、拓大に入学している。牛島は全日本選手権で2連勝したこともある強豪で、政治運動にも奔走する「国士型柔道家」として知られた。

天覧試合に優勝、「木村の前に木村なく」の言葉を生んだときの木村政彦—拓殖大学創立100周年記念『右手に文化の炬をかかげ』から



は道場で、何度も木村を投げ飛ばし、得意の寝技で締め上げて気絶させ(いわゆる「落とし」)、熊本時代「麒麟児」と言われていたその鼻柱をへし折った。1年生の夏、講道館の紅白試合

で8連勝し9試合目に負けた。しかしこれで5段に認定された。大学の先輩たちが「よくやった」と一杯飲み屋でちやうそをしてくれただ。ほろ酔い気分で帰った木村を牛島は「紅白試合で勝ったぐらい